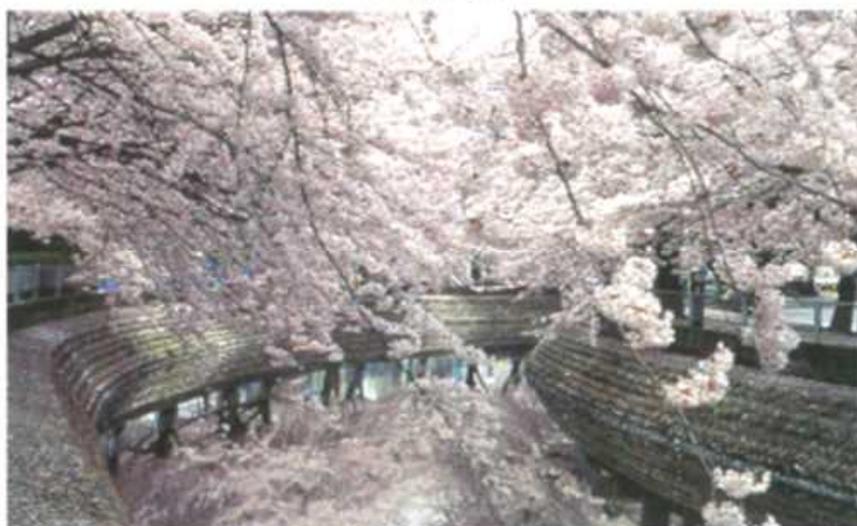


中小企業景況調査報告書

2022年度第4・四半期（1～3月）

大江山河川の桜



Cherry Blossoms on the Banks of Ogasawara River

目次

調査の要領	1
今期の概況	2
景況に対するコメント	3
景況の推移 前年同期比	4
業種別集計表・新規設備投資集計表（100社）	5
景況の推移業種別集計表 前期比	6
「直面している経営上の問題点」の集計表（業種別上位3位）	7
「直面している経営上の問題点」の集計表（各業種）	8～10
前年同期比のグラフ（各項目）	11～14

The Ichinomiya Chamber of Commerce & Industry

一宮商工会議所 中小企業相談所

調 査 の 要 領

- I. 調査対象期間 調査対象期間は、「4～6月」「7～9月」「10～12月」「1～3月」の四半期毎とする。
- II. 調査実施時期 調査実施時期は、「4～6月」「7～9月」「1～3月」については目安として各四半期二月目の25日から末月の1日とし、末月の1日時点で調査する。また、「10～12月」については、目安として11月10日から15日とし、15日時点で調査する。
- III. 調査の実施
(方 法) 調査は、日本商工会議所の調査様式を用いて調査実施時期に、原則として経営指導員が企業を訪問し、面接・聴き取りにより行う。
- IV. 調査対象企業数 100事業所
- V. 調査対象企業
の業種 次の表のとおり

景況調査対象事業所（100）の内訳

業 種	事業所数
建設業	12
製造業	35
卸売業	10
小売業	16
サービス業	27
合 計	100

- VI. その他の分析
1. 設備投資 実施状況数
2. 経営上の問題点 各項目をポイント加算
- | |
|---------|
| 1位3ポイント |
| 2位2ポイント |
| 3位1ポイント |

今 期 の 概 況

景況感は引き続き回復基調も、材料・物価高などの影響か、採算は依然として厳しく、先行きへの警戒感も残る

1. 前年同期比D I 値の分析

今期(表1参照)は、売上、資金繰り、従業員のDI値で前期実績を上回り、業況、採算のDI値で前期実績を下回った。

来期は、資金繰り、従業員のDI値で今期実績を上回り、採算のDI値で横ばい、業況、売上のDI値で今期実績を下回る見通し。

指標別の状況

- 業況DI値は、前期実績▲4.0から▲5.0(1.0ポイント減)となり、来期は▲11.0(6.0ポイント減)となる見通し。
- 売上DI値は、前期実績12.0から16.0(4.0ポイント増)となり、来期は11.0(5.0ポイント減)となる見通し。
- 採算DI値は、前期実績▲25.0から▲27.0(2.0ポイント減)となり、来期は▲27.0(横ばい)となる見通し。
- 資金繰りDI値は、前期実績▲21.0から▲15.0(6.0ポイント増)となり、来期は▲9.0(6.0ポイント増)となる見通し。
- 従業員DI値は、前期実績▲12.0から▲9.0(3.0ポイント増)となり、来期は3.0(12.0ポイント増)となる見通し。

2. 前期比D I 値の分析

今期(表4、5参照)は、資金繰りのDI値で前期実績を上回り、業況、売上のDI値で前期実績を下回った。

指標別の状況

- 業況DI値は、前期実績▲9.0から▲10.0(1.0ポイント減)となった。
- 売上DI値は、前期実績5.0から▲8.0(13.0ポイント減)となった。
- 資金繰りDI値は、前期実績▲16.0から▲10.0(6.0ポイント増)となった。

3. 設備投資の動向

今期の設備投資は、前回調査値(36件、27事業所)に比べ、件数は増加しており、事業所数は横ばいである。

- ① 今期の実績(表3参照)は38件(27事業所)。その主な内訳は、『生産設備』11件、『OA機器』9件、『車両・運搬具』6件となっている。
- ② 来期の計画(表3参照)は37件(24事業所)。その主な内訳(予定)は、『生産設備』10件、『OA機器』『車両・運搬具』各7件、『工場建物』5件となっている。

4. 直面している経営上の問題点

業種別の直面している経営上の問題点(表6参照)は、多くの業種で経営上の問題点の上位に『仕入等単価の上昇』、『需要の停滞』、『従業員の確保難』を挙げている。

業 況 レ ポ ー ト

今期については次のようなコメントをいただきました。

A社（繊維製造業〈織物製造〉）

今期の売上高は増加し、来期も増加を見込むが、材料費やエネルギー代などの価格上昇で利益は横ばい。業界も円安と海外生産のコストアップが顕著となり、生産の国内回帰が見込まれる一方で、国内の生産設備は弱体化しており、自社においても生産設備など強化していく必要がある。

B社（繊維製造業〈染色業〉）

業況は回復基調にあるが、電力費などエネルギーコストや原材料価格の上昇で収益の改善には至っていない。今後、経済活動の正常化により、百貨店などの売上が回復すれば、衣料関係の受注回復も期待できる。

C社（建設業〈電気設備工事業〉）

工事材料を発注しても入荷がいつになるかわからない為、今入荷できるものから仕入れている状況。そのため完成の予定が立たず、資金繰りに影響がある。受注は今年(2023年)末まで契約済みであるが、この状況下で2024年度の受注がどれだけ回復するか不透明である。

D社（卸売業〈食品容器類卸売〉）

昨年春から現在も続く仕入れ商品の度重なる値上げにより、ユーザーである飲食業界、一般消費者の消耗品への節約志向が高まり、値上げしても売上増加には結びつかない。また、コロナを機に慶事・仏事の簡素化が進み関連商品の卸販売が減った。風習は元に戻らないと思うので次の戦略を考えたい。

E社（小売業〈化粧品小売〉）

商品価格の値上げ、光熱費の高騰でお客様の買い控えがあり厳しい状況が続いているが、コロナ規制が緩くなり、マスクが外れることで口紅などが売れることを期待している。実際に少しずつ客足が戻ってきている。

F社（サービス業〈理容業〉）

段階的に料金を見直し、現況に対応しているが、既存客の来店サイクルが長くなり利用回数の減少や燃料費などの値上がりも収まらず厳しい状況が続いている。この春も原材料、化粧品などの値上げが伝えられているため、前倒しで在庫を増やすなどして対応している。

G社（サービス業〈WEB制作・PCスクール〉）

エネルギー、材料費等の値上がりによるお客様の経営状況の悪化により、広報費への予算をとってもらいにくい状況にある。また、物販部門においてもパソコンや付属パーツなどの価格高騰が止まらず、販売を縮小している。

景況の推移

表 1

～ 前年同期比～

	R4. 1～3月	R4. 4～6月	R4. 7～9月	R4. 10～12月	今 期 R5. 1～3月	来期の見通し R5. 4～6月
業 況	▲22.0	▲14.0	▲13.3	▲ 4.0	▲ 5.0	▲11.0
売 上	▲ 6.0	21.0	0.0	12.0	16.0	11.0
採 算	▲38.0	▲30.0	▲42.9	▲25.0	▲27.0	▲27.0
資金繰り	▲15.0	▲13.0	▲17.3	▲21.0	▲15.0	▲ 9.0
従 業 員	▲ 8.0	▲ 6.0	▲13.3	▲12.0	▲ 9.0	3.0

業種別集計表 ～ 前年同期比 ～

表 2

	事業所数	12	35	10	16	27	100	D I
		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合計	
業況	好転	4 (2)	9 (9)	1 (1)	4 (1)	2 (2)	20 (15)	▲ 5.0 (▲11.0)
	不変	6 (9)	18 (18)	5 (5)	8 (10)	18 (17)	55 (59)	
	悪化	2 (1)	8 (8)	4 (4)	4 (5)	7 (8)	25 (26)	
売上	増加	5 (3)	14 (13)	4 (3)	8 (3)	11 (9)	42 (31)	16.0 (11.0)
	不変	5 (7)	11 (16)	1 (3)	5 (9)	10 (14)	32 (49)	
	減少	2 (2)	10 (6)	5 (4)	3 (4)	6 (4)	26 (20)	
採算	好転	3 (1)	4 (4)	2 (2)	4 (2)	2 (0)	15 (9)	▲ 27.0 (▲27.0)
	不変	5 (8)	14 (19)	4 (5)	6 (7)	14 (16)	43 (55)	
	悪化	4 (3)	17 (12)	4 (3)	6 (7)	11 (11)	42 (36)	
資金繰り	好転	1 (1)	1 (2)	1 (1)	1 (2)	1 (0)	5 (6)	▲ 15.0 (▲9.0)
	不変	11 (10)	24 (26)	8 (8)	12 (12)	20 (23)	75 (79)	
	悪化	0 (1)	10 (7)	1 (1)	3 (2)	6 (4)	20 (15)	
従業員	増加	1 (3)	5 (5)	0 (2)	0 (0)	3 (3)	9 (13)	▲ 9.0 (3.0)
	不変	10 (9)	22 (26)	9 (7)	14 (16)	18 (19)	73 (77)	
	減少	1 (0)	8 (4)	1 (1)	2 (0)	6 (5)	18 (10)	

※ 採算は経常利益で判断

※ () 内は来期

新規設備投資集計表

表 3

設備投資	今期	実施した ※1	27	来期	計画している ※2	24
	(事業所数)	実施していない	73	(事業所数)	計画していない	76

	※ 1	※ 2		※ 1	※ 2
1. 土地	2 件	0 件	5. 付帯施設	3 件	4 件
2. 工場建物	5 件	5 件	6. O A 機器	9 件	7 件
3. 生産設備	11 件	10 件	7. 福利厚生施設	1 件	0 件
4. 車両・運搬具	6 件	7 件	8. その他	1 件	4 件
			合計	38 件	37 件

複数回答可

景況の推移

表 4

～ 前 期 比 ～

	R4.1～3月	R4.4～6月	R4.7～9月	R4.10～12月	今 期 R5.1～3月
業 況	▲27.0	▲18.0	▲21.4	▲ 9.0	▲10.0
売 上	▲29.0	13.0	▲13.3	5.0	▲ 8.0
資金繰り	▲17.0	▲ 9.0	▲14.3	▲16.0	▲10.0

業種別集計表

表 5

～ 前 期 比 ～

	事業所数	12	35	10	16	27	100	D I
		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合計	
業 況	好 転	3	4	2	3	0	12	▲ 10.0
	不 変	9	20	6	10	21	66	
	悪 化	0	11	2	3	6	22	
売 上	増 加	4	6	4	6	8	28	▲ 8.0
	不 変	7	11	3	7	8	36	
	減 少	1	18	3	3	11	36	
資 金 繰 り	好 転	0	1	1	2	1	5	▲ 10.0
	不 変	11	28	8	12	21	80	
	悪 化	1	6	1	2	5	15	

『直面している経営上の問題点』の集計表

表 6

(業種別上位3位)

業 種	順位	内 容		
		1 位	2 位	3 位
建設業		○材料価格の上昇	○従業員の確保難	○請負単価の低下・ 上昇難
製造業		○原材料価格の上昇	○需要の停滞	○原材料費・人件費 以外の経費の増加
卸売業		○仕入単価の上昇	○需要の停滞	○従業員の確保難
小売業		○仕入単価の上昇	○消費者ニーズの 変化への対応 ○販売単価の低下・ 上昇難	○人件費以外の 経費の増加 ○需要の停滞
サービス業		○材料等仕入単価の 上昇	○従業員の確保難	○利用者ニーズの 変化への対応 ○人件費以外の 経費の増加

『直面している経営上の問題点』の集計表

建設業

内 容	ポイント
大企業の進出による競争の激化	0
新規参入業者の増加	0
材料価格の上昇	23
材料の入手難	7
人件費の増加	2
材料費・人件費以外の経費の増加	1
請負単価の低下・上昇難	9
下請単価の上昇	2
金利負担の増加	0
取引条件の悪化	0
事業資金の借入難	0
従業員の確保難	12
熟練技術者の確保難	0
下請業者の確保難	3
官公需要の停滞	5
民間需要の停滞	5
その他	0
合 計	69

製造業

内 容	ポイント
大企業の進出による競争の激化	0
新規参入業者の増加	0
製品ニーズの変化への対応	5
生産設備の不足・老朽化	17
生産設備の過剰	0
原材料価格の上昇	72
原材料の不足	8
人件費の増加	20
原材料費・人件費以外の経費の増加	22
製品(加工)単価の低下・上昇難	13
金利負担の増加	0
取引条件の悪化	0
事業資金の借入難	2
従業員の確保難	14
熟練技術者の確保難	8
需要の停滞	27
その他	0
合 計	208

※ 1位 … … 3ポイント
 2位 … … 2ポイント
 3位 … … 1ポイント

『直面している経営上の問題点』の集計表

卸売業

内 容	ポイント
大企業の進出による競争の激化	0
メーカーの進出による競争の激化	0
小売業の進出による競争の激化	3
新規参入業者の増加	0
店舗・倉庫の狭隘・老朽化	0
商品在庫の過剰	0
人件費の増加	2
人件費以外の経費の増加	4
販売単価の低下・上昇難	1
仕入単価の上昇	17
金利負担の増加	0
代金回収の悪化	3
事業資金の借入難	0
従業員の確保難	5
需要の停滞	14
その他 (外注加工費の上昇)	1
合 計	50

小売業

内 容	ポイント
大型店・中型店の進出による競争の激化	0
同業者の進出	3
購買力の他地域への流出	1
消費者ニーズの変化への対応	12
店舗の狭隘・老朽化	6
駐車場の確保難	0
商品在庫の過剰	1
人件費の増加	5
人件費以外の経費の増加	8
販売単価の低下・上昇難	12
仕入単価の上昇	28
金利負担の増加	0
代金回収の悪化	0
事業資金の借入難	2
従業員の確保難	4
需要の停滞	8
その他 (通販)	3
合 計	93

※ 1位 … … 3ポイント
 2位 … … 2ポイント
 3位 … … 1ポイント

『直面している経営上の問題点』の集計表

サービス業

内 容	ポイント
大企業の進出による競争の激化	0
新規参入業者の増加	5
利用者ニーズの変化への対応	15
店舗施設の狭隘・老朽化	9
人件費の増加	13
人件費以外の経費の増加	15
利用料金の低下・上昇難	11
材料等仕入単価の上昇	35
金利負担の増加	0
事業資金の借入難	3
従業員の確保難	19
熟練技術者の確保難	8
需要の停滞	3
その他 (コロナ後の利用者の変化・減少傾向)	1
合 計	137

※ 1位 … … 3ポイント
 2位 … … 2ポイント
 3位 … … 1ポイント

景況 DI (全業種) - 前年同期比 -

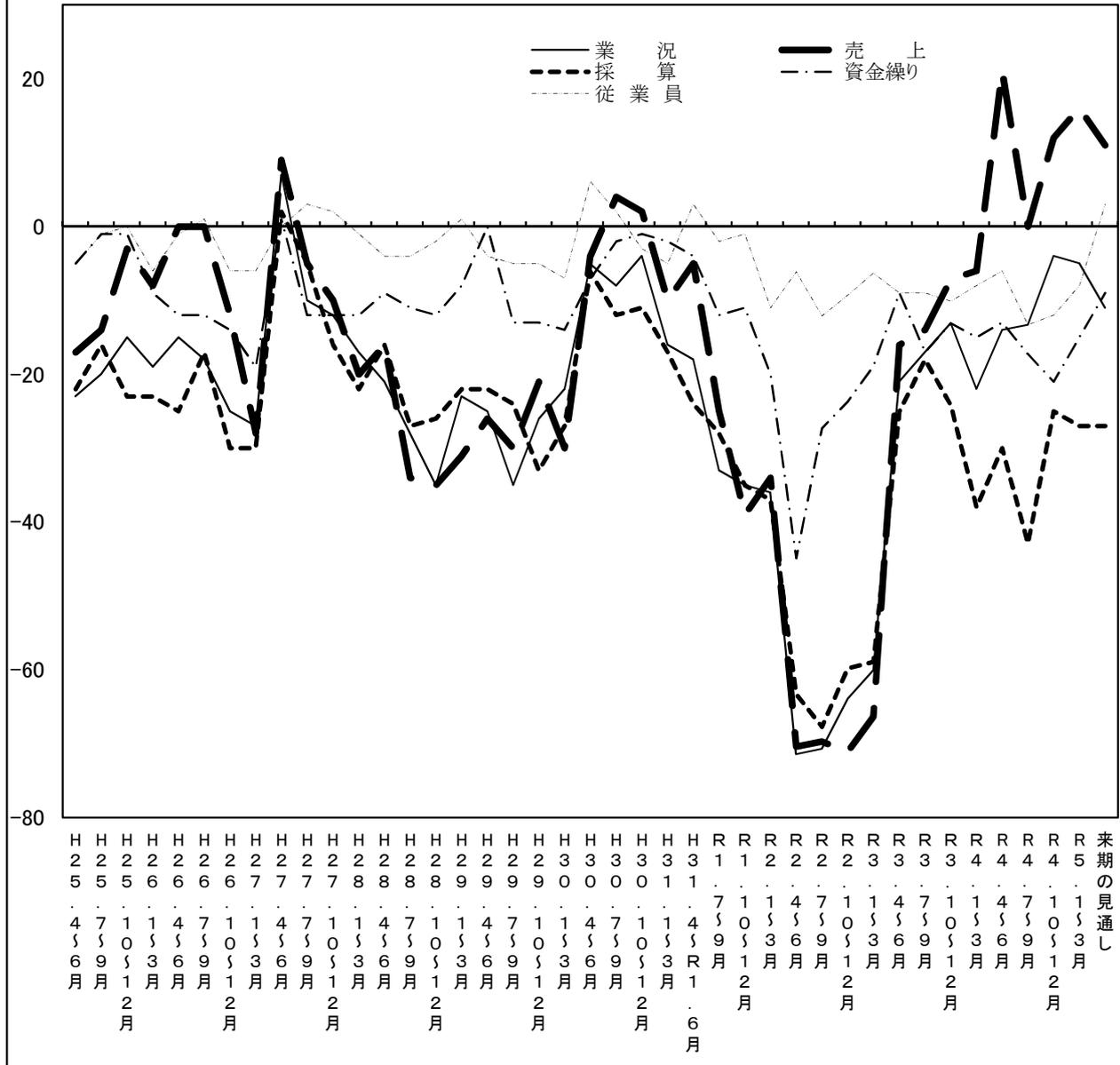


図 2

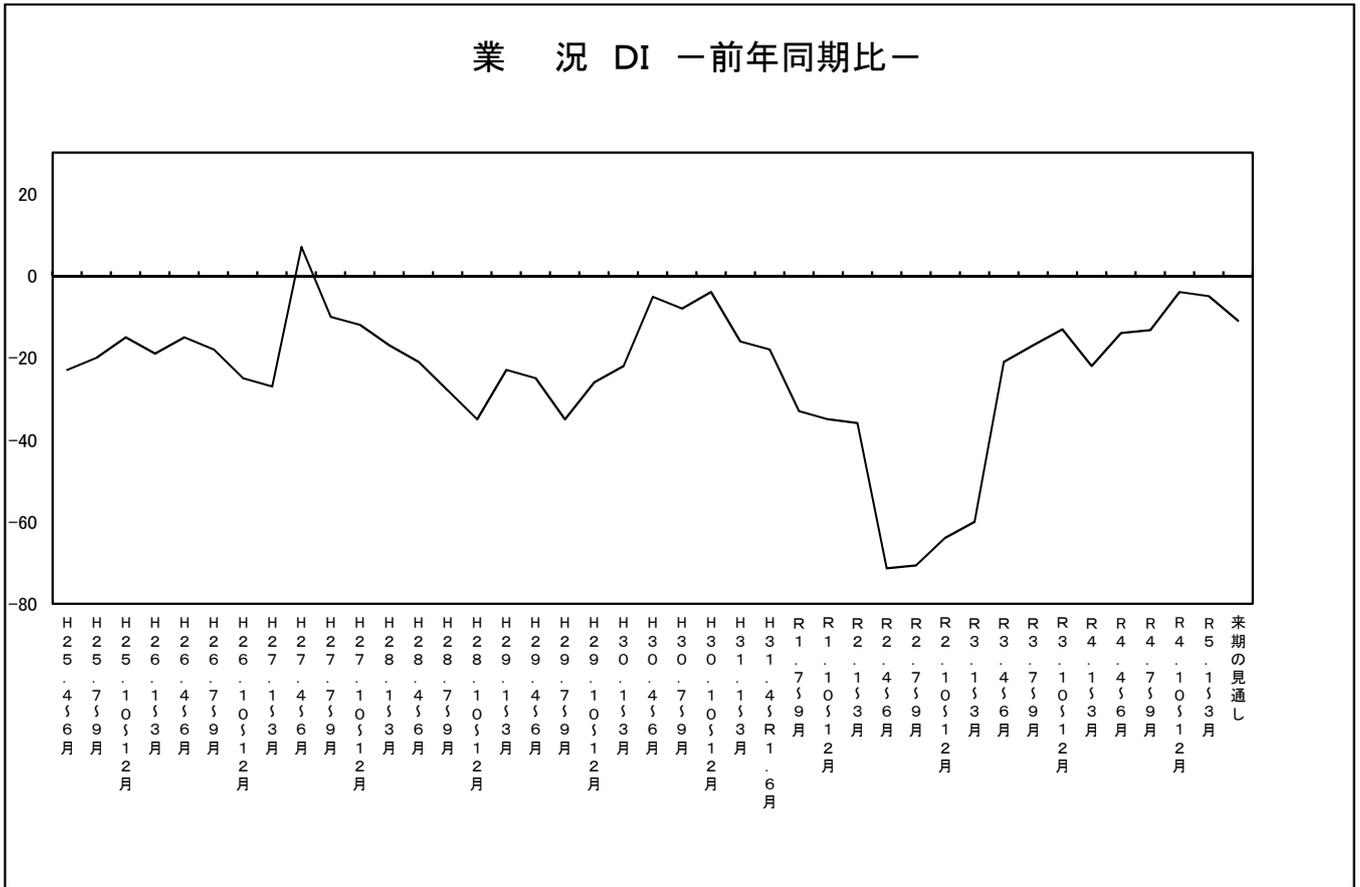


図 3

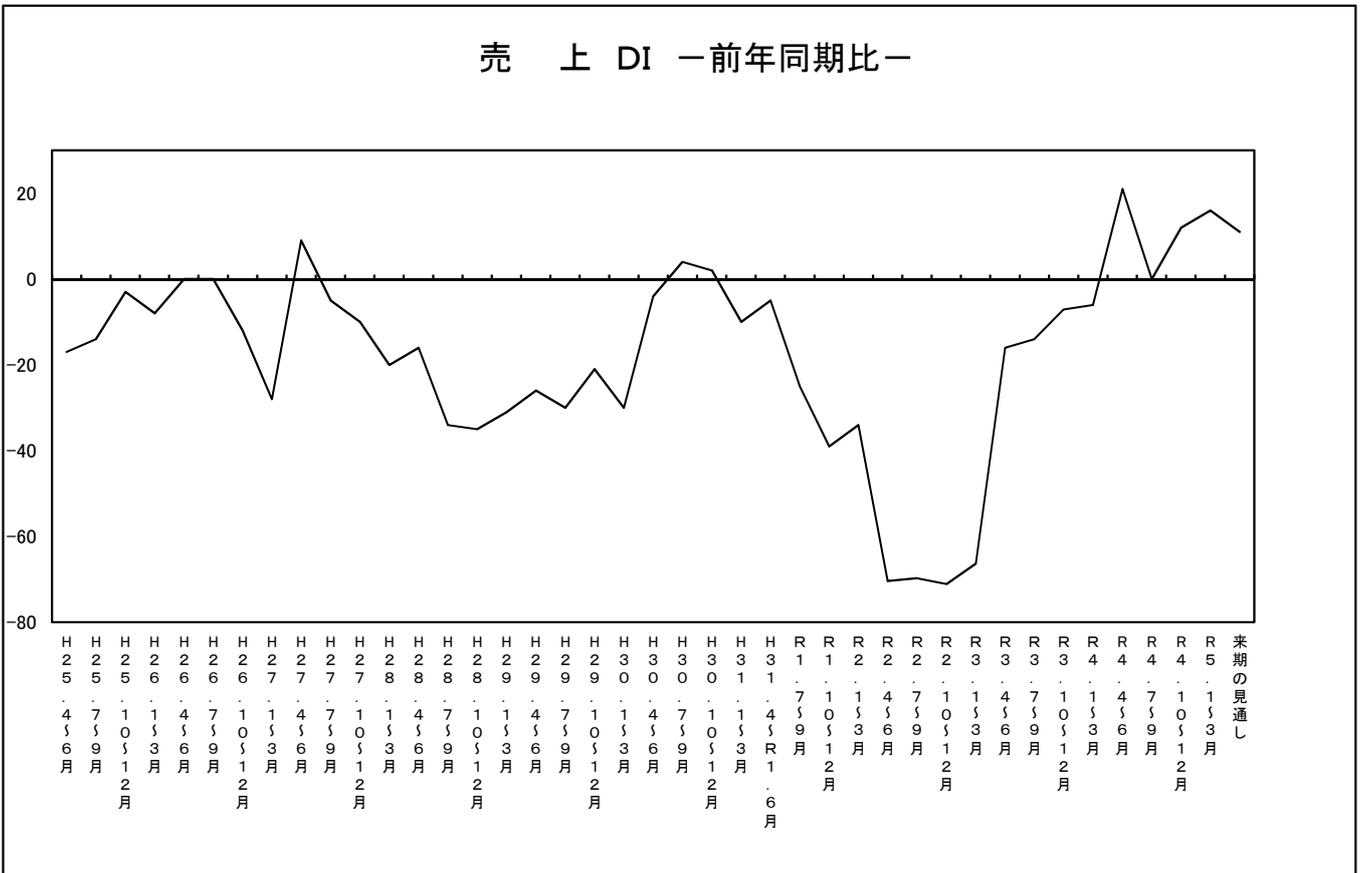


図 4

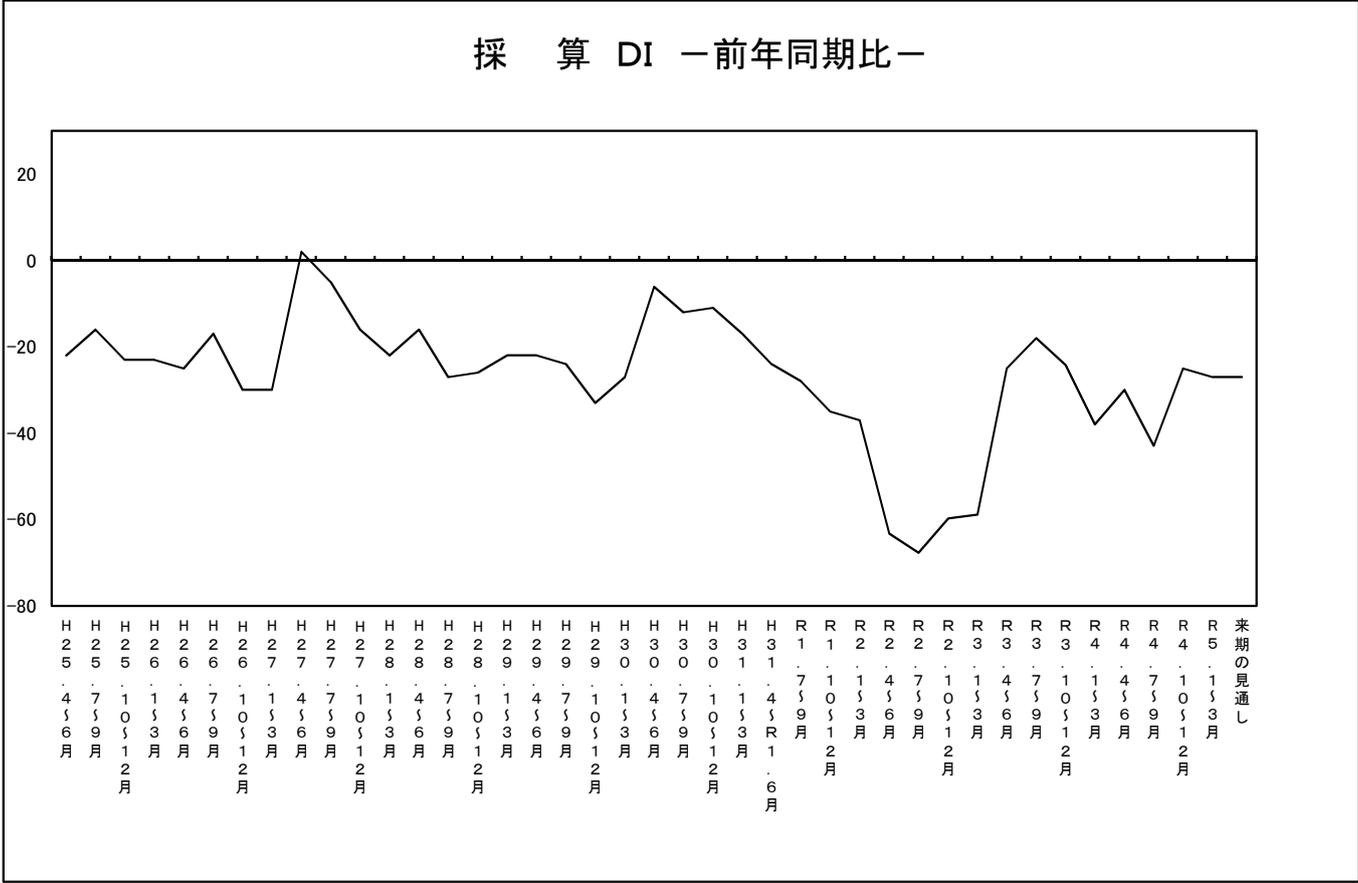
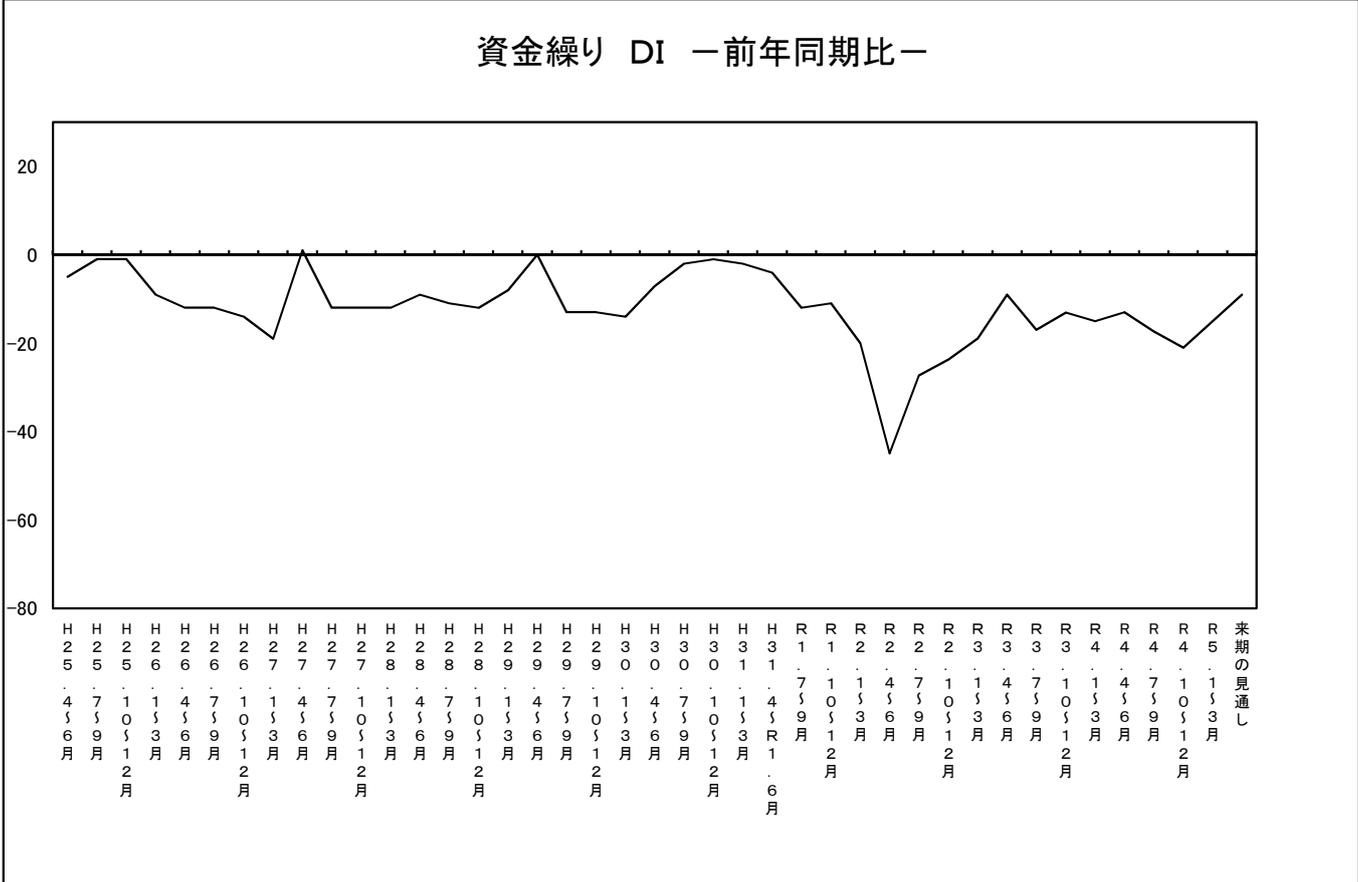
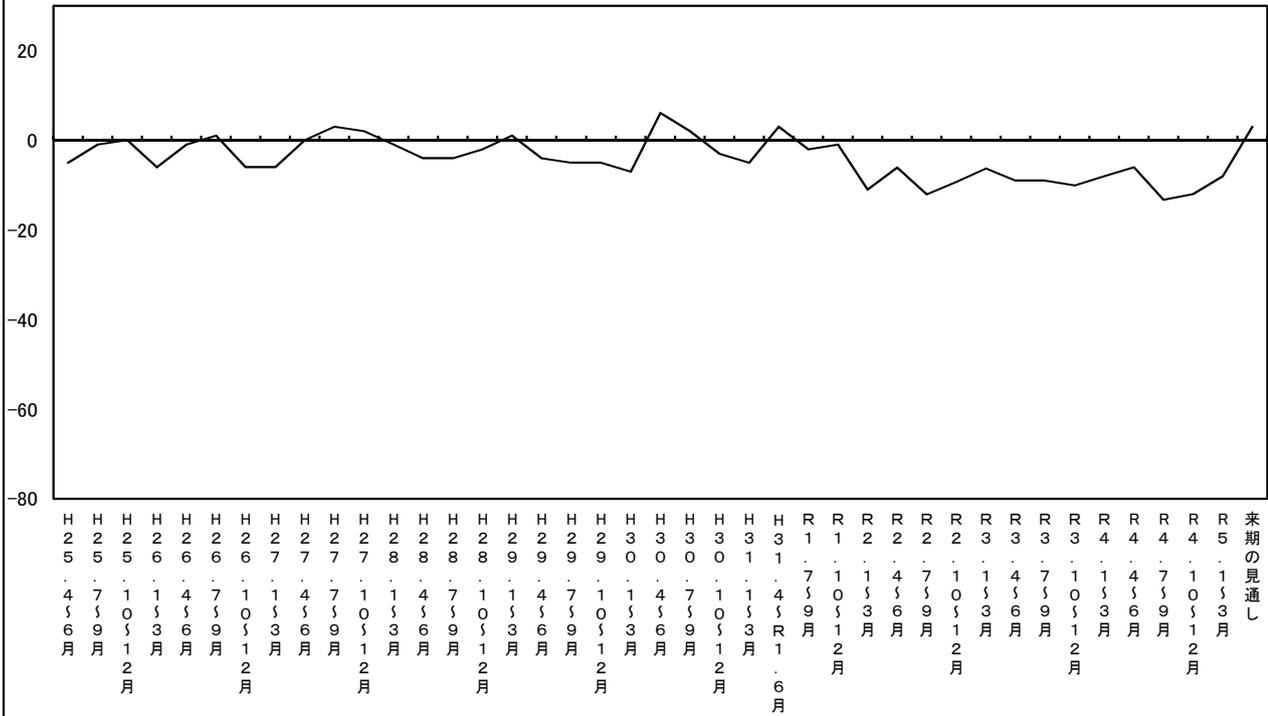


図 5



従業員 DI - 前年同期比 -





一 宮 商 工 会 議 所
中 小 企 業 相 談 所

一宮市栄四丁目6番8号 (〒491-0858)

T E L (0586) 72-4611

F A X (0586) 72-4411

U R L <http://www.ichinomiya-cci.or.jp>

E-mail soudan@ichinomiya-cci.or.jp